

令和四年九月一日発行 第二十二巻第九号 通巻第 七五号 (毎月一冊) 1100円
平成二三年九月十八日第三 報知新聞社刊

槐

かい

岡井省二創刊

令和4年9月号



腹巻

高橋将夫

浄土への道は腹巻すててこで

高尚な趣味の紙魚なり古今集

漆黒のベールを纏ふ夕焼かな

蛭追ひ昼夜逆転してしまふ

蜩の夜間 歇泉の吹き出して
紫陽花が持つ愛といふ多面性
情熱の炎は白き海芋^{カラ}かな
真心を示せば桐の花咲きぬ
人知れず合歓の花咲く長寿村
トースターのパンの飛び出る暑さかな
甚平着て不器用と言ふ人ばかり

日月抄

高橋将夫 推薦

虫	い	六	さ	尺	海	夏	墨
見	か	月	み	蠅	の	至	擦
ぬ	づ	や	ど	の	日	の	れ
郷	ち	雨	り	吾	や	夜	ど
に	や	も	の	に	吾	最	擦
も	宇	数	胸	向	が	後	れ
虫	宙	多	に	か	法	に	ど
袋	の	の	水	ひ	名	笑	も
咲	掟	顔	音	し	の	ふ	薄
く	平	を	や	構	積	人	し
	和	見	花	へ	願	の	梅
	なり	せ	山	なり	海	を	雨
			葵			り	に
							入
時	久	柴	阪	井	中	中	出
澤	保	田	倉	上		西	利
	夢	靖	孝	静	貞	厚	葉
藍	女	子	子	子	子	子	孝

万緑の溶け出しさうな雨の降る

中島昌子

浮見堂にこつそり仕舞ふ夏の月

高野昌代

飛ぶ蛍捕へぬ人の薄情け

阿部さちよ

み仏は青年の形り藤の花

橋本順子

日焼けせし声と腕とで道案内

竹村 淳

青春の海に恋して帰省せり

安野眞澄

夏潮や夕餉の終の鯛の鯛

杉原ツタ子

亀鳴くや右手の淋しい散歩かな

星野昭子

怖いゆめみたよと舐めるシャーベット

亀元悦子

槐集

高橋将夫選

列島の緑の隙間風が縫ふ

大阪 出利葉孝

墨擦れど擦れども薄し梅雨に入る

沖繩の長い道のり青葉闇

許さざりフランスパンの夏木立

青葉闇彷徨ふ精霊学徒兵

白夜光夢と現の境無し

守口 中西厚子

夏至の夜最後に笑ふ人の居り

指先が記憶している灼くる岩

密やかな楽しみありき夏きざす

ポスターの視線に惑ふ小暑かな

休日朝や明るき花菖蒲

枚方 中 貞子

海の日や吾が法名の釈願海

夏蝶の雨に抗ふ力かな

飛石を渡る楽しさ未草

人悼みきて重たかりけり夏草履

枚方 井上静子

花菖蒲剪らるる時の武者震ひ
尺蠖の吾に向かひし構へなり
われ嗅ぎしあと山梔子の花の錆び
生駒山に雲の影あり喜雨来る
畝作り了へ塩梅の石に座す
しながきの余白うつくし鱧料理
さみどりの胸に水音や花山葵
さはさはと木霊揺るるや蛇の衣
はつとする面差しもあり夏薊
身の内へ露草育つ窓のあり
麦秋や観覧車なる過ぎし日々
この空にとても似合つてダリアかな
六月や雨も数多の顔を見せ
蠅一匹されど一匹追ひまはし
ささやきかと思ふ清水の流るる音

岡崎 柴田靖子

阪倉孝子